

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	9	学校名	甲府城西高校		
全・定・通	全	学年	1	在籍生徒数	246名
教育目標 (学力に関するもの)	<ol style="list-style-type: none"> 学習指導の工夫・改善に努め、自ら学び、考える力を育む。 授業を通して4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。 体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め、学び続ける力を育む。 指導の狙いを明確にしICTも活用する中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。 				
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	<ol style="list-style-type: none"> 主体的に学び続ける力を育む(主体性) 創造性を高める思考力・判断力・表現力を育む(創造性) 心身を鍛え、豊かな人間性を育む(人間性) 規範意識を高め、社会性を育む(社会性) 社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む(協働性) 				

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
国語	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 話すこと・聞くこと「書くこと」読むこと「各領域において論理的思考力や想像する力を伸ばし、他者と関わる中で伝え合える力を高める考えを広げられる。 言葉を通して積極的に他者と社会と関わり、言葉が持つ価値への認識を深めようとする自覚や姿勢を培うとしている。	4.1	4.1	実社会において、有用な知識や技能を身に付けようとする姿勢は見られるが、基礎的な力の習得において不十分な点が見られる。地道で、継続的な取り組みが必要である。 論理的思考力が強い様子が見られる。この力を伸ばせば、各領域の能力も高められる。よって、様々なジャンルの文章を丁寧に読ませ、読解させていくことが重要である。
地公	地理や歴史の基本的諸事象を理解し、現代社会の課題と結びつけて考えまとめる技能を身につけている。 地理や歴史の事象の意味や意義を多面的・多角的に考察し、わかりやすく説明する力を身につけている。 よりい社会の実現をめざし、諸課題を主体的に追求する態度や自国や他国の文化や歴史を大切にしている。	3.9	4.4	現代の諸事象を理解できているものの、それらのつながりや因果関係まで理解できていない。来年度以降は、知識と知識のつながりを意識して指導していきたい。
数学	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化したり、取捨選択して解釈・表現・処理する技能を身に付けることができる。 事象を的確に表現し、その特徴を数学的に考察する中で、問題を解決したり判断することができる。 数学の土壌を認識し活用しようとする態度、粘り強く数学的に判断したり考察しようとする態度、評価・改善したりしようとする態度が身につけている。	4	4.1	授業内では、基本的な事項を理解し、様々な事象に取り組むことができているが、それらの定着までには至っていない生徒が多い。復習や繰り返しの演習が必要であり、ICTなどを活用し主体的に取り組む姿勢を育みたい。 身に付けた知識や技能を、他の事柄で活用することが苦手なため、思考や問題の成績評価を具体的に認めることが課題である。より深く考え、活用できる力をつけるために、協働しながら考える時間を増やしていく必要がある。
理科	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。 観察、実験、実習のなかで、科学的に考察し、論理的かつわかりやすく表現することができる。 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする姿勢がある。	4.4	4.2	学習した知識や技術を用いて身近な事象について論理的かつ科学的に捉えることができつつあるので、もっと興味を持たせていきたい。
英語	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きについて理解を深め、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり伝え合うことができる。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。 各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けている。	3.9	4.2	授業を通じて基本事項を理解できた生徒が多かったと思われる。家庭での復習の習慣を付けてさらに知識の定着を図るため、工夫して課題を設定したい。 設定された場面や目的に応じて自分の意図に近いパフォーマンスを実践した。今後もALTと協力しながら、より現実に近いコミュニケーションの場面となるような課題を考えたい。
芸術	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。 生涯にわたる芸術を愛好する心構えを育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創っていく態度に感化し豊かな情懷を培う。	4.2	4.6	様々な表現方法を学習して自ら考えて表現しようとする意欲が強い。意見発表や発表発表や、アウトプットすることによりさらに表現技術が身に付けたことができた。
家庭	一人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、主体的に育むために必要な科学的な理解、技能を体験的・総合的に身に付けている。 家庭や地域及び社会における生活の中から課題を設定し、科学的な根拠に基づいて表現することで生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。 様々な人々と協働し、地域社会に参画し、生活文化を継承し、家庭や地域の生活の充実向上について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	4.4	4.5	授業を通して家族・家庭について理解を深め、これからの自分の将来に必要な知識・技能をさらに深めるために実践的な体験を増やせるように工夫したい。
保健	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けている。 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 生活にわたって継続して実践しようとする態度を育み、健康維持と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を送る態度を養う。	4.4	4.5	実技教科ゆえの課題として、二極化が挙げられる。実技を苦手とする生徒への細やかな指導はもたらぬこと、成長や達成感を感じるような授業展開を模索したい。
保健	運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 生活にわたって継続して実践しようとする態度を育み、健康維持と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を送る態度を養う。	4.4	4.5	自己の課題を見つけて、互いに教え合う姿が見られた。今後も気軽に質問したり教え合ったりできる環境を整えていきたい。また、ICTを積極的に活用する場面を設けていきたい。
保健	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けている。 運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。 生活にわたって継続して実践しようとする態度を育み、健康維持と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を送る態度を養う。	4.6	4.6	実技教科ゆえの課題として、二極化が挙げられる。実技を苦手とする生徒への細やかな指導はもたらぬこと、成長や達成感を感じるような授業展開を模索したい。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報	情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのよき社会と人間との関わりについて理解している。 問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を活用し、適切な効果的に対応している。	3.8	4.4	知識の習得は教員が指導する座学を受動的に学ぶことが多く、生徒自らが主体的に学ぶためにもLife is Techの有効活用が望まれる。
情報	情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのよき社会と人間との関わりについて理解している。 問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を活用し、適切な効果的に対応している。	4.1	4.3	問題の発見・解決のためプログラミング学習を検討したが、実行は不十分であった。
情報	情報と情報技術の問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのよき社会と人間との関わりについて理解している。 問題の発見・解決に向けて、情報と情報技術を活用し、適切な効果的に対応している。	4.4	4.5	主体的に学び、自ら評価し改善するための材料としてLife is Techを導入したが、活用しきれなかった。次年度は年間を通しての有効活用が望まれる。
総探	探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識、技術や方法を身に付け、探究の意義を理解している。 地域と自己の関わりから課題を設定し、情報収集し、整理分析してまとめ表現している。 自己の進路に関連した課題を設定し、解決方法を探究することで、よりよい社会を実現しようとしている。	—	4.6	山梨県内の校外学習、ふじやま探求、共生社会の探求を通して、理解を深めることができた。
総探	探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識、技術や方法を身に付け、探究の意義を理解している。 地域と自己の関わりから課題を設定し、情報収集し、整理分析してまとめ表現している。 自己の進路に関連した課題を設定し、解決方法を探究することで、よりよい社会を実現しようとしている。	—	4.5	整理分析したことをわかりやすくまとめる方法について次年度は取り扱いたい。
総探	探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識、技術や方法を身に付け、探究の意義を理解している。 地域と自己の関わりから課題を設定し、情報収集し、整理分析してまとめ表現している。 自己の進路に関連した課題を設定し、解決方法を探究することで、よりよい社会を実現しようとしている。	—	4.6	アンケートやインタビューなど多様な探求方法を知ることができた。得た結果を表現するために生かせるようにしていく。

【授業アンケート】高評価数値の推移(%:小点数第1位まで)		R6中間	R6度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた	①強くそう思う、②そう思う	92.3%	91.2%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた	①強くそう思う、②そう思う	89.2%	90.9%
他の人の話や発表に耳を傾けることができた	①強くそう思う、②そう思う	95.9%	96.2%
ノート等で授業の記録をすることができた	①強くそう思う、②そう思う	96.1%	96.8%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようにすることができた	①強くそう思う、②そう思う	83.0%	86.5%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた	①強くそう思う、②そう思う	90.4%	92.4%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた	①強くそう思う、②そう思う	84.0%	86.5%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた	①強くそう思う、②そう思う	74.1%	84.7%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)	
評価の公正・公平性、生徒や保護者に対する教育課程や履修登録についての説明や指導への評価が高い。また、授業の中で、BYODをはじめとするICTの活用についての評価も比較的高い。生徒のアンケートでも、年度末評価が中間評価から10%アップしているなど、授業の中でのICT活用がしっかり行われていることがわかる。	

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)	
3観点についての評価も、その他の項目の評価も、年度末ではほとんどの数値が上がっている。中間の授業アンケートの結果を受けて、それぞれの教科で授業改善に取り組んだことがわかる。次年度への課題については、学んだことを別の場面で使っていくことについての働きかけや、評価が上がっていないが、BYODをはじめとするICTを活用した授業にさらに取り組んでいくことである。	

Active School Kai Project 令和6年度プロジェクト計画書(報告書)

学校番号	9	学校名	甲府城西高校
全・定・通	全	学年	3
		在籍生徒数	236名
教育目標 (学力に関するもの)	1 学習指導の工夫・改善に努め、自ら学び、考える力を育む。 2 授業を通して4つの力(理解する力、収集する力、まとめる力、伝える力)を育む。 3 体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め、学び続ける力を育む。 4 指導の狙いを明確にしICTも活用する中で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に努める。		
育てたい生徒像 身に付けさせたい資質・能力	1 主体的に学び続ける力を育む(主体性) 2 創造性を高める思考力・判断力・表現力を育む(創造性) 3 心身を鍛え、豊かな人間性を育む(人間性) 4 規範意識を高め、社会性を育む(社会性) 5 社会の情勢を意識し、主体的に社会と関わる態度を育む(協働性)		

各教科の取組	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
英語	実社会に必要な英語の知識や技能をよく身に付けている。	4.4	4.4	実社会でも必要となる基本的な発音や聞き取りの基礎となるIPAやBYODを活用した学習で定着を図った。その定着度をテスト、定期試験等で確認する必要があるが、ICTの活用等でもっと気軽に練習にできるように、工夫していきたい。基本的な文章読解の手法に関して論理理解を進める中で読解のスキルを伸ばしていきたい。
国語	「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において論理的思考力や想像する力を伸ばし、他者と関わる中で伝え合う力を高める自分の考えを広げている。	4.3	4.3	論理理解は年々目覚ましい進歩があり、思考・判断・表現力は着実に身に付けていることを計画している。しかしその評価の部分が難しく、どのような手法をとるべきか模索し、研究していきたい。
地公	地理や歴史の事象の意味や意義を多面的・多角的に考察し、多様な意図のなかで議論する力が増えている。	4.2	4.3	現代の社会への関心が低かったことに加え、地理歴史・公民の基礎知識が少ない状態にあった。授業を通じて論理・技術は身につけたと考えられるが、歴史的背景や地理的背景をもとに考えるところを来年度は重視したい。
数学	基本的な概念や原理・原則を体系的に理解し、事象を数学化した後、数学的に解釈・表現・処理する技能を身に付けている。	4.3	4	3年の学習内容は、後半に難易度の高い内容が集中しているため、前期に比べ基本事項の定着があまりできていなかった。この点を踏まえ、繰り返し演習や予習などしていきたい。
理科	事象を的確に表現し、その特徴を数学的に考察する中で、問題を解決したり判断することができる。	4.3	4.1	身に付けた知識や技能を、他の事柄に活用することが苦手なため、思考や判断の成績評価が全体的に低いことが課題である。より深く考え、活用できる力をつけるために、教材を工夫する必要がある。
英語	自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。	4.3	4.3	学習した知識や技術を用いて身近な事象について論理的かつ科学的に捉えることができるようになってきた。
英語	観察、実験、実習のなかで、科学的に考察し、論理的かつわかりやすく表現することができる。	4.2	4.2	基本的な知識を習得したうえで自由な発想で課題に取り組み、思考する力を身に付けられるようになった。今後は表現することの工夫をさらに身に付けたい。
英語	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度が身につけている。	4.3	4.3	授業の内容を、自分の身近な関わりのあるものとして捉えられるようになった。さらに探求を深め多面的に検討していくことが大切である。
英語	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きについて理解を深め、目的や場面、状況等に応じて適切に活用できる。	4.3	4.2	授業で習った表現を実際の場面で使えるように必ずパフォーマンステストに当該の表現を使う状況設定をすることで定着を図った。
英語	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり伝え合うことができる。	4.2	4.3	レッスンの中で重要とされる表現を使う練習やALTの準備したゲームを活用して行った。グループごとに分る生徒に任せて自分はやらなくていいというやりかたを、先生が行ったため、ここを改善することが課題である。
英語	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的・自発的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。	4.3	4.2	ALTとの文化交流の中で外国語の背景にある文化を理解している様子は何もない。しかし、あまり外国や外国語に関心を持っていない生徒もいるため、その点も生徒自身に気づかせることが課題である。
芸術	各科目の特質について理解し、意図に基づいて表現するための技能を身に付けている。	4	4.8	音楽では、目的や場面に応じて題材の内容を、音楽要素や音楽の歴史から、表現できる要素を捉え、意図を持って表現することができた。3年生は必修で必修でなく選択なので、少人数での授業展開もでき、興味関心のある生徒など、指導を工夫して取り組んでいる。
芸術	創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わうことができるようになる。	4.6	4.8	個々の題材に関心を持ち、その楽曲の持つ良さや美しさを深く味わっていた。その楽曲に対する指導事項を理解していた。
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い豊かな情懷を培う。	4.3	4.8	オペラやミュージカルなど、学校芸術でなければ触れることのできない題材を学習することにより生涯にわたり芸術を愛好できる入り口を広げることができた。自ら表現できるような指導することが来年度の課題である。
家庭	生活を主体的に営むために必要な知識や技能を実生活中に活かす、社会へ出る準備ができている。	4.6	4.6	生活を主体的に営むために必要な知識や技能を身に付けることができた。今後、さらに応用力を身に付けることに取り組む。
家庭	家庭や地域及び社会における生活の中から課題を発見して的確に表現し、問題を解決したり判断することができる。	4.3	4.7	生活の中から課題を発見し、学習した知識や技術を創意工夫しながら表現することができた。今後の課題として、生徒自身の生活をより豊かにするよう自ら課題解決に取り組むような指導を工夫したい。
家庭	職業生活に参画して様々な人と協働し、生活文化を継承するなど家庭や地域の生活の充実向上について学ぶが、主体的かつ協働的に取り組むようとしている。	4.4	4.8	生活文化を継承するためにICTを積極的に活用し、主体的に課題に取り組むことができた。しかし、取り組みには個人差があり、意欲の低い生徒もいるため、その点も生徒自身に気づかせることが今後の課題である。
家庭	各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けていく。	4.6	4.5	実技教科ゆえの課題として、二種化が挙げられる。実技を苦手とする生徒への細やかな指導ももちろんのこと、成長や達成感を味わえるような授業展開を模索したい。
家庭	運動や健康についての自己や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。	4.6	4.5	自己の課題を見つけ、互いに教え合う姿が見られた。今後お気軽に質問したり教え合ったりできる環境を整えていきたい。また、ICTを積極的に活用する場面も設定していきたい。
家庭	生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力あふる生活を送る態度を養う。	4.7	4.7	様々な種目に触れさせることで、生涯スポーツへの理解を深めさせていきたい。わからないことや興味を持った内容を積極的に調べたり、仲間と関わり合う中で運動を楽しむ方法を考えたり、意欲的に取り組む姿が見られた。

教科	身に付けさせたい資質・能力	中間評価	年度末評価	次年度への課題
情報				
工業	工業の各分野に関する基礎的な知識と技術を応用する力を身に付け、工業の意義や役割を理解している。	4.3	4.5	基礎的な知識技術は身に付けることができた。次年度以降はより高いレベルの知識技術に挑戦していく生徒を育成する必要がある。
工業	工業技術に関する諸問題を技術と知識を応用して適切に判断し的確に表現する能力を身に付ける。	4.2	4.3	調べ学習や実習などにおいて自らの知識を表現する能力を身に付けた。自らの考えを作品として表現する能力はもう少し伸ばしたいと感じる。
工業	工業技術に興味・関心を持ち、その改善向上をめざして意欲的に取り組むとともに実践的な態度を身に付ける。	4.5	4.4	生徒が苦手と感じる単元ではよりICT機器を活用し生徒の興味関心を持たせることでの授業構成をしていかなければと感じる。
商業	商業の各分野について2年次に培った基礎力のうえにさらに理解を深めるとともに、関連技術を身に付ける。	4.5	4.3	商業は各科目の関連性を理解することにより、さらに自ら興味をもって学習に取り組めるようになることを考える。常に関連性に気を配りながら学習をすすめていきたい。
商業	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力をさらに養う。	4.2	4.2	ただ知っているという状態から活用できるような状態になるのが課題である。
商業	職業人として必要な意欲や人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造に発端に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	4.2	4.3	多くの職業人となる若者が、社会のなかで生きていくための力、特にコミュニケーション力の向上を目指し、目的意識と主体性をもって物事に取り組みたい態度を養いたい。
総探	探究の過程において課題の発見と解決に必要な知識、技術を用いて、探究の意義を理解している。	—	4.5	2年次に各自が決めた課題について、探究学習を行い、スライドにまとめ、発表することで理解を深めた。
総探	地域と自己の関わりから課題を設定し、情報収集し、整理分析してまとめ、表現をしている。	—	4.5	各自のテーマについて、資料やデータなどの情報を分析して考察を深め、パワーポイントを使用し、分かりやすくまとめて発表することができた。
総探	自己の進路に関連した課題を設定し、解決方法を探究することで、よりよい社会を実現しようとしている。	—	4.4	BYOD端末を活用し、課題解決に向けて丁寧に考察を重ね、プレゼンテーションを行い、意欲的に取り組むことができた。

「授業アンケート」高評価数値の推移(%) <small>小教点第1位まで</small>		R6中間	R6年度末
授業の始めに授業の目標を確認することができた	①強くそう思う、②そう思う	92.5%	93.1%
話し合い、討論、発表などの言語活動に取り組むことができた	①強くそう思う、②そう思う	90.6%	92.6%
他人の語や発表に耳を傾けることができた	①強くそう思う、②そう思う	92.4%	95.3%
ノート等で授業の記録をすることができた	①強くそう思う、②そう思う	97.4%	97.0%
活用・探究など、学んだことを別の場面で使うようすることができた	①強くそう思う、②そう思う	89.8%	88.1%
授業や単元の終わりに、目標を達成しているかを評価することができた	①強くそう思う、②そう思	92.8%	91.6%
家庭学習(宿題や課題)と授業を、有機的に結び付けることができた	①強くそう思う、②そう思う	88.5%	87.7%
授業や家庭学習にICT機器を効果的に活用することができた	①強くそう思う、②そう思う	81.5%	86.4%

保護者アンケート結果(学力に係わるもの)
 体験的な学習を重視し、興味・関心・意欲を高め学び続ける力を育んでいることや、学力に応じた授業や、系列の特色を生かした授業がきめ細かに行われていることについての評価が高い。また、BYODをはじめとするICTを利用した授業・家庭学習への評価も比較的高い。2・3年次で、8つの系列のいずれかに所属し、自らの特性や進路目標達成のための学力を伸ばすという本校の特色的なカリキュラムの効果があつたと判断できる。

授業アンケート等を踏まえた総合評価(学校としての今年度の成果と次年度の課題を含む)
 3観点の評価については、ほとんどどの教科について年度末の評価が上がっている。3観点以外の変更に関する評価も、半分の項目の評価が上がっている。中間の評価結果を受けて、各教科で授業改善に取り組んだ結果と考えられる。次年度への課題としては、学んだことを別の場面で活用していくことへ働きかけと、家庭での学習と授業を有機的に結び付けられるようにしていくこと、そして、BYODをはじめとするICTを活用した授業にさらに取り組んでいくことである。